Focus まちの話題

皆さんの周りの楽しい話題やイベントなどの情報を教えてください。
市民協働課（☎227－6056）

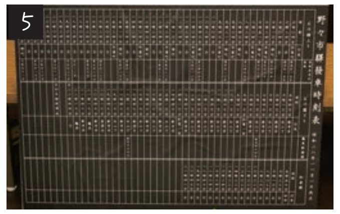
在りし日の記憶をたどる

野々市と鉄道の記憶展「松金線の想い出」

郷土資料館 NoNo で、野々市と鉄道の記憶展「松金線の想い出」が 10 月 1 日㈫～ 12 月 27 日㈮に開催されました。松金線とは、昭和 30 年に廃止となるまで野々市を走っていた鉄道で、松任駅（白山市・旧松任町）と野町駅（金沢市）をつないでいました。会場には、松金線の歴史が分かるパネルや路線図、当時を再現した野々市駅のジオラマや時刻表などが並びます。

現在は、道路拡幅への活用などによりわずかな面影を残すのみとなった松金線。会場には、その痕跡を巡るマップ「残照を訪ねて」が展示されました。マップは郷土資料館ホームページでも見ることができます。

令和 5 年 6 月のリニューアルオープン以降、多くの催しを行う郷土資料館 NoNo。2 月には、落語を鑑賞する「おきらくごの会」や日本酒「猩々」の関連イベント（詳細は 12 ページ）も企画しています。今後も郷土資料館 NoNo の動向から目が離せません。



❶解説するのは展示を企画した㈱中央設計技術研究所の井関氏。「リバイバル展示も行いたい」と語りました。❷昭和初期の野々市駅ホームは、石川線・松金線合わせてなんと 4 番線まで！❸❹行先方向版や駅票など、北鉄石川線で実際に使用されていた現物も展示。❺ダイヤ図から復元した時刻表。

郷土資料館 NoNo ホームページ▶

野々市市×金工大　協働で課題を解決

地域課題解決型授業成果展

成果展は、12月10日㈫から16日㈪まで開催されました。

金沢工業大学の学生は、授業の一環として市が抱える地域課題の解決に向けて取り組んでいます。その成果展が学びの杜ののいち カレードで行われ、合計 4 つのテーマに対する解決策がポスターと建築模型として展示されました。その中のテーマの一つである「令和 7 年国勢調査に向けて」では、「若者の回答率が低いので、大学内に調査票の回収ボックスを設置する」という提案がなされるなど、学生ならではの視点で解決策が考えられていました。

やさしいお米、いただきます！

学校給食での特別栽培米の提供

化学肥料や化学農薬の使用量を半分以下にし、代わりに自然由来の肥料などを組み合わせて栽培した「特別栽培米」。このお米の栽培は環境への負荷が低く、農業の持続的発展のために重要なものです。特別栽培米を使用した給食が、市内小中学校で 12 月 10 日㈫～ 13 日㈮の 4 日間提供されました。収穫量減少のリスクや除草作業の増加など、多くの困難を乗り越えて作りあげられた農作物。子どもたちは、心を込めて育てられたお米をおいしそうに味わっていました。

12月13日㈮の富陽小学校。「おいしい！」と笑顔がはじけます。

広がる友達の輪

ママカフェ（ママ友作り＆ママ先生）

子育て中の友達ができる絶好の機会！　次回開催は 2月18日㈫予定。

子育て支援センター和光が 2 カ月に 1 度開催している「ママカフェ」。12 月 17 日㈫のママカフェでは、前半はランダムに決められた話題での会話を楽しむ“アドジャントーク”で自己紹介をしながら親睦を深めました。後半はあいとくん・おとちゃんママが“ママ先生”として、表情筋を動かして顔の悩みを減らす小顔ヨガ講座を行いました。ママの得意なことを発揮し、参加者の趣味嗜好の幅を広げる意図もあるそうです。終了後、参加者は心も体もほぐれリフレッシュした様子でした。

プロスポーツを身近に

ツエーゲン金沢の小学生向けサッカー教室

スポーツへの興味を深めるきっかけ作りとして、プロサッカーチーム「ツエーゲン金沢」によるサッカー教室が館野小学校で 12 月 19 日㈭に開催されました。ツエーゲン金沢の現役選手 2 人を含む計 4 人が、館野小 5 年生約 80 人と一緒に準備運動やリフティング、パス練習、試合形式の練習を実施。最後には質問コーナーやサイン会、集合写真撮影を行いました。試合ではロングシュートやスーパーセーブが飛び出し、児童らは口々に「うめぇ！」「すご！」と圧倒されていました。

プロと同じピッチに立ち、目の前のプレイに魅了されます。

親子で楽しくクッキング

親子の料理教室

しめじをほぐして、すいとんの具にします。

市保健センターで 12 月 26 日㈭に親子の料理教室が行われました。まず食生活改善推進員による、料理をする際に気を付けることについての紙芝居を見てから調理を開始。参加した小学生までの子どもとその保護者計 20 人は、おにぎりとすいとんを作りました。食生活改善推進員も手伝いながら調理し、いよいよ実食。参加者は、野菜たっぷりのすいとんとニンジンやのりで顔を表現したおにぎり（写真右）をおいしそうに頬張り、思わず笑顔がこぼれていました。

江戸時代から伝わる正月遊び

つばきの郷児童館　旗源平大会

1 月 6 日㈪、つばきの郷児童館で毎年恒例の旗源平大会が開催され、約 20 人が参加しました。旗源平は、源氏（白旗）と平家（赤旗）に分かれ、2 つのさいころを振った出目によって互いの旗を取り合う遊びです。出目の呼び方も特徴的で、良い目の「1 と 5」は加賀藩の梅鉢にちなみ「ウメガイチ」、悪い目の「4 と 2」は「シノニ」など名前が決まっています。児童らは、味方の番は「ウメガイチ！」、相手の番には「シノニ！」と大合唱。手拍子と共に応援し、盛り上がっていました。

2 つのさいころの行方をドキドキしながら見守ります。